

大自然とお友達体験講座 2023 第6回講座レポート

第6回目の講座は、10月15日(日)に大阪市旭区にある淀川城北ワンドで開催しました。この日の受講生は10名。数日前の予報から雨が心配されましたが、朝方には既に雨は綺麗に止んで絶好の秋晴れとなりました。

待ち合わせ場所で今日の流れを確認した後、淀川の堤防を越えて河川敷に向かいました。



9時から、本日お世話になる淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(通称イタセンネット)のミーティングに参加しました(写真右上)。イタセンネットは、天然記念物のコイ科の魚、イタセンパラの野生復帰と淀川の自然再生を目指し、外来魚駆除や河川清掃などを行っている団体です。2023年8月現在、国交省や環境省をはじめ、研究機関や民間企業など合計43もの連携団体で構成されています。

左の写真は講座が始まりイタセンネットの河合事務局長のお話を聞いている様子です。

城北ワンドのすぐ上を南北に跨ぐ菅原城北大橋の上から淀川全貌を確認し、河合事務局長のお話を聞いている様子です。
ここからの景色は城北ワンドをはじめ淀川右岸・左岸全体を見渡すことができ、大阪市内に大自然が広がっている事を実感できます。



左下の写真は、その時に同時進行のイタセンネットの地引網の様子です。
捕れた魚は計測などの為に一旦全て引き上げられます。
その写真の左上の方には菅原城北大橋が見えています。
また、右下の写真は、橋の上から河川敷に戻ってきた受講生の様子です。
今の季節、まだ緑の草原が広がっています。



9時45分を過ぎ、この日の大きなイベント、「淀川わんどクリーン大作戦」の受付が始まりました。国土交通省淀川河川事務所が毎年1回秋に開催しているものです。講座の受講生も記帳することになりました。受付を済ませたら火ばさみやごみ袋、軍手を受け取りました。



イベント参加者は10時の開会の時点でご覧の雰囲気。この時点で150名程度は集まっているのではないのでしょうか。



開会式も終わり、早速ごみ拾いに向かいました。
ふと特定外来生物のナガエツルノゲイトウの大群落を発見。
足を止めました。



話し合いの結果、ごみ袋は置いておき、全員で外来植物の駆除をすることになりました。



今回の講座用に用意した胴長(ウェーダー)は初めて使用する人が殆どで、慎重に水の中に入ってもらいました。

大きなナガエツルノゲイトウの群落でしたが、人数がいるのでベルトコンベアのように次々に陸に引き上げていきます。

水の中に入って外来植物駆除するという事を講座の企画段階から考えていたものの、まさに胴長が大活躍しました。



皆さんの大活躍のお陰で左下の写真のようにナガエツルノゲイトウはごっそり無くなりました。実は奥の方にも沢山生えており、撮影後に更に回収しました。



終わって皆さんで記念撮影、凄い駆除量です。水からあげて土とも離しておけば枯れるので、このままにしておきます。



ナガエツルノゲイトウ:写真左下 と、そこにいた外来種スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)とその卵塊:写真右下。すべて駆除しました。



クリーン大作戦で集められたごみたちが集積されていきます。
ワンドの周辺は比較的清掃活動が行われており、本来あれだけの人数で回収を行えばもっと量が多いようです。



ここでクリーン大作戦での清掃活動は終了、クリーン大作戦の後半はこの周辺地区で環境保全活動をしていることからイタセンネットの団体紹介があり、イタセンネットの会長が解説を行いました。



その後は、先程までのイタセンネットの活動で捕れた魚の説明を、イタセンネットの連携団体である環境事業協会の職員でイタセンネットの理事でもある岡本が行いました。魚類などは十数種類捕れるのですが、実はイタセンネットの活動時はほぼ毎回岡本が説明しています。



下の写真はトラックの荷台に並べられた観察ケース。
1つに1種類ずつ入っていますが、今回イタセンパラの姿を確認することはできませんでした。



そして実際にどのように捕獲をしているのか、地引網のデモンストレーションを行っている様子です。受講生のほかにも沢山の方が集まっています。



受講生も網引きに参加！いい経験が出来ました。



本日初めての種類が捕獲されましたので、大阪工業大学の学生さんが解説していました。
シロヒレタビラというイタセンパラと同じタナゴの仲間です。
シロヒレタビラは夏産卵の種類なのですが、綺麗な婚姻色がまだ出ています。
婚姻色とは、繁殖期にオスだけに現れる綺麗な色のことです。
地球温暖化＝この時季でも水温が上昇していてそれが影響しているのかもしれないね。



受講生も観察ケースを回して近くで見ることができました。



さて、イタセンネットの定例保全活動とコラボ開催したクリーン大作戦はここで終了。
昼食前に、河合事務局長の資料を使った淀川の歴史を中心としたミニ講座がありました。
明治からの壮大な付け替え工事などの歴史に、受講生は静かに聞き入っていました。



そのまま昼食です。
ポカポカ日和で良い気持ちでした。



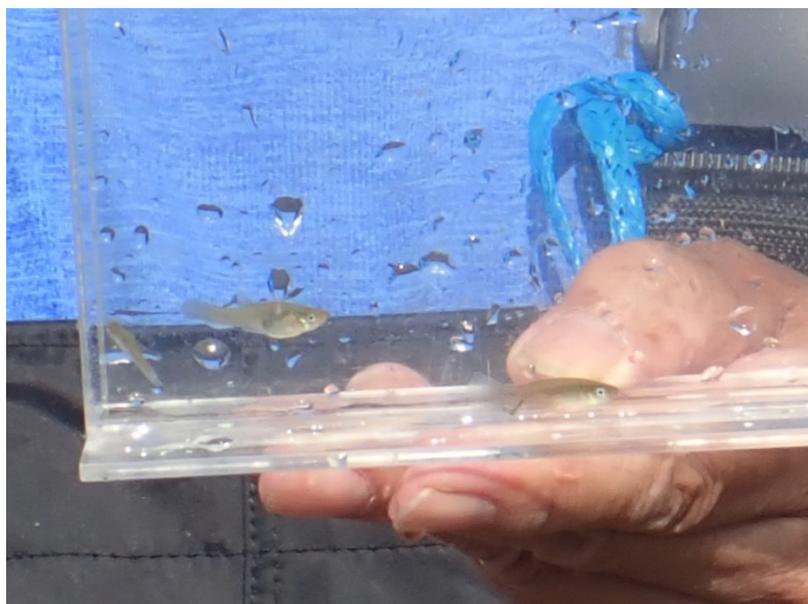
午後からはこの講座だけの特別メニューです。

まず、すぐ近くのワンドの浅瀬で特定外来生物のカダヤシを捕獲しての解説がありました。



メダカによく似ていますが、淀川にはもうメダカはほぼいません。

メダカと間違えて飼育している人も絶対いるとは思いますが、特定外来生物は、堤防を越えて河川敷外に行きたままの持ち出しは禁止とされており、飼育や譲渡も法律で禁止されていますのでご注意ください。





こちらは大繁殖すると水面を覆いつくして水中の環境を悪化させる、特定外来生物のアメリカオオアカウキクサ(アゾラ・クリスタータ)の解説をしている様子です。日本の在来種にもオオアカウキクサという近縁種がいましたが、そちらは大阪府レッドリスト2014では「絶滅」とされています。



次の体験活動地のすぐそばに、ヨシやオギ、セイタカヨシなどが生えています。その説明もありました。右下の写真のように、そばに行くとかかなり見上げる位置まで伸びているのが良く分かります。



体験活動の開始です。
四手網を設置して、そこをめがけて水中を歩いて魚を追い立てていきます。



左の写真は捕獲された魚たち。
ブルーギル7匹、タウナギ1匹、モツゴ1匹、、、この場所には外来魚が多いようです。

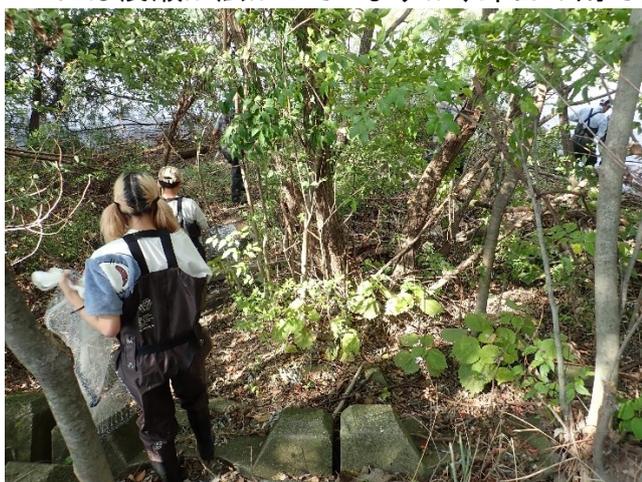
今回捕れた目玉は右の写真のカムルチー。
全長 45 cm程度あります。
外来種ではありますが、特定外来生物や生態系被害防止外来種などにも登録されていないので、駆除はせず放流しました。



次は本流へ移動して投網の体験です。
なかなか無い経験に受講生は持ち方の勉強から始まりました。



ある程度持ち方が分かったところで淀川本流に入っていました。
ここには浅瀬が広がっていますが、昨日の雨でいつもより少し水深が深いです。



何か捕獲できたようですが網の目あいが少し荒いので、魚が逃げないようにイタセンネットの会長と受講生が二人で網と魚を押さえながら岸边に戻ってきました。



開けてびっくり特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュです。大きなものでは1mを超えるようなサイズになります。この淀川本流で繁殖しているようですね。



岸辺では胴長を履いていない受講生が網などで生物を捕獲しています。
しかしここにはあまりいませんでした。
また、ここ淀川本流でのごみの漂着も見て貰いましたが、ワンドに比べて多いのが分かりました。



こちらは本流で投網を投げている様子。
綺麗に広がった網は河合事務局長の投げたもの。





受講生も後に続きます。
何回も投げることで、後半は皆さん形になってきていました。
夢中で時間いっぱいまで楽しみました。

終了の時間となり橋の下の拠点に戻る最中、釣り人から、イタセンパラに近い種類でカネヒラという魚を講座のためにとご提供頂きました。

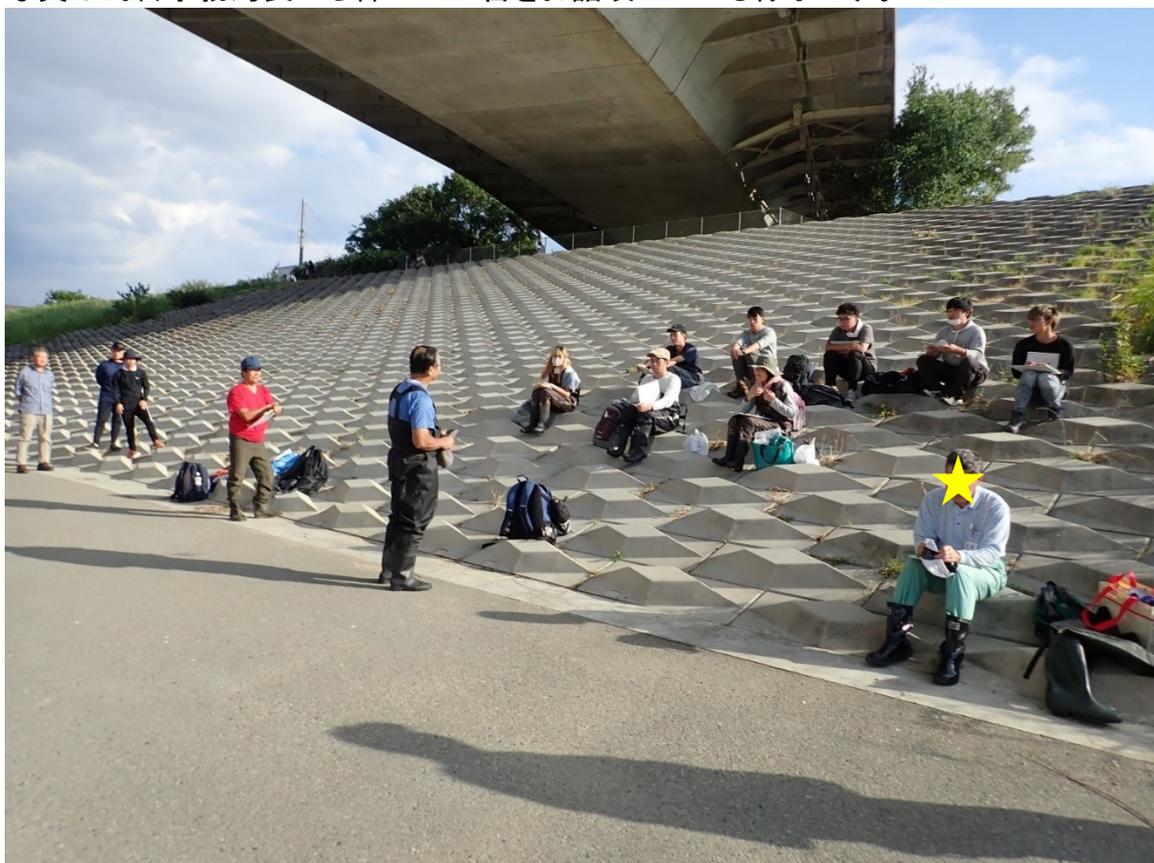
下の写真は、観察ケースに入れて河合事務局長が受講生たちにお見せしている様子です。繁殖期なので綺麗な桜色をしています！



体験活動が終わり、受講生やスタッフで荷物の運搬をして拠点に戻る様子です。



その後、ふりかえりを行いました。
写真は河合事務局長から締めの一言をお話頂いている様子です。



活動に使った胴長を受講生で洗浄しました。

城北ワンドの堤防を越えてすぐ横の城北公園のトイレ前には、写真のように洗浄できる場所があり、こういった活動をする上で非常に便利な場所となっています。



さて、アンケートでは、以下のような回答が寄せられました。

- ・今日の活動をすごく楽しみにしていました！知らなかったことが沢山知れて、今後日常生活で今までありふれた物だったことの見方が変わるなと思った。
- ・外来種(植物も)の対応は困難でも、手をこまねいていると、どんどん増殖してしまう。持ち込まれた経過は様々とのことだが、行政だけでは担いきれない部分に、どうアプローチしていくか、それぞれの役割で良い部分を出し合うことで前に進める気がした。
- ・最近大規模なゴミそうじのイベントが開かれていたといってもやはりそれにはあるゴミや、大量繁殖する水草や外来種の魚など、まだまだ改善していかなければならない環境があり、環境保全に対する気持ちがますます増しました。
- ・胴長を着たのも川に入り、地引網や投網体験をしたのも初めてだったので、とても楽しかったです。淀川の生物や植物もたくさん観たり、説明してもらえてよかったです。
- ・全体的なバランスが良かったです。外来草のくじょも出来ましたし四手網で魚もとれましたし。

以上のように、ごみの問題、生物多様性の問題、両方を考えることができたことにより、いつも以上に受講生にとって非常に充実した楽しい講座内容になったと思われ、環境マインドの向上にも繋がりました。